

平成21年食中毒発生状況の概要について

平成22年6月
厚生労働省食品安全部

1. 発生状況（事件数、患者数、死者数）

平成21年に国内で発生した食中毒事件数は1,048件（対前年－321件）、患者数20,249人（対前年－4,054人）、死者数0人（対前年－4人）であった。

また、患者500人以上の食中毒は2件発生した（前年は1件）。

2. 月別発生状況

食中毒事件の発生が最も多かった月は、12月の129件（12.3%）で、次いで9月の108件（10.3%）、1月の107件（10.2%）の順であり、冬季に事件の発生が多かった。患者数では、2月の3,871人（15.9%）、1月の3,223人、12月の3,067人の順で多く、この3ヶ月の患者数は9,908人と年間発生患者数の約半分（48.9%）を占めていた。

3. 病因物質別発生状況

○ 病因物質の判明したものは、事件数948件（90.5%）、患者数18,514人（91.4%）であった。病因物質別の事件数は、カンピロバクター・ジェジュニ／コリ（345件）、ノロウイルス（288件）、サルモネラ属菌（67件）、植物性自然毒（53件）の順で多かった。病因物質別の患者数は、ノロウイルス（10,874人）、カンピロバクター・ジェジュニ／コリ（2,206人）、ウェルシュ菌（1,566人）、サルモネラ属菌（1,518人）の順で多かった。

○ 腸管出血性大腸菌による食中毒は、事件数26件、患者数181人で、いずれも血清型O157によるものであった。

○ 病因物質別発生状況の年次別推移では、腸炎ビブリオ及びサルモネラ属菌は、事件数、患者数ともに、平成10、11年をピークとして減少傾向にある。近年、カンピロバクターによる食中毒が増加傾向にあり、食中毒では最も多く発生している。

また、ノロウイルスを原因とする食中毒事件は、事件数、患者数ともに多く発生しているが、平成18年をピークに減少傾向にある。

4. 原因食品・施設別発生状況

○ 原因食品の判明したものは、事件数805件（76.8%）、患者数17,833人（88.1%）であった。

○ 原因食品別の事件数は、魚介類（94件）、肉類及びその加工品（91件）、複合調理食品（59件）、野菜及びその加工品（54件）の順で多かった。（「その他」を除く。）

○ 原因食品別の患者数は、複合調理食品（1,318人）、肉類及びその加工品（852人）、野

菜及びその加工品（788人）、魚介類（723人）の順が多かった。（「その他」を除く。）

- 原因施設の判明したものは、事件数864件(82.4%)、患者数19,859人(98.1%)であった。
- 原因施設別の事件数は、飲食店(562件)、家庭（95件）、旅館（84件）の順が多かった。
- 原因施設別の患者数は、飲食店（10,336人）、旅館（3,749人）、仕出屋（1,683人）の順が多かった。

5. その他

平成21年食中毒発生状況の詳細等については、厚生労働省食品安全部ホームページ「食中毒に関する情報」（<http://www.mhlw.go.jp/topics/syokuchu/index.html>）で公開している。

表 1 年次別食中毒発生状況

年次	事件数	患者数	死者数
56	1,108	30,027	13
元年	927	36,479	10
7	699	26,325	5
8	1,217	46,327	15
9	1,960	39,989	8
10	3,010	46,179	9
11	2,697	35,214	7
12	2,247	43,307	4
13	1,928	25,862	4
14	1,850	27,629	18
15	1,585	29,355	6
16	1,666	28,175	5
17	1,545	27,019	7
18	1,491	39,026	6
19	1,289	33,477	7
20	1,369	24,303	4
21	1,048	20,249	0

年次	病因物質	事件数	患者数	死者数
16	サルモネラ属菌	225	3,788	2
	カンピロバクター・ジェジュニ/コリ	558	2,485	0
	腸炎ビブリオ	205	2,773	0
	小型球形ウイルス	277	12,537	0
	その他・不明	401	6,592	3
17	サルモネラ属菌	144	3,700	1
	カンピロバクター・ジェジュニ/コリ	645	3,439	0
	腸炎ビブリオ	113	2,301	0
	ノロウイルス	274	8,727	0
	その他・不明	369	8,852	6
18	サルモネラ属菌	124	2,053	1
	カンピロバクター・ジェジュニ/コリ	416	2,297	0
	腸炎ビブリオ	71	1,236	0
	ノロウイルス	499	27,616	0
	その他・不明	381	5,824	5
19	サルモネラ属菌	126	3,603	0
	カンピロバクター・ジェジュニ/コリ	416	2,396	0
	腸炎ビブリオ	42	1,278	0
	ノロウイルス	344	18,520	0
	その他・不明	361	7,680	7
20	サルモネラ属菌	99	2,551	0
	カンピロバクター・ジェジュニ/コリ	509	3,071	0
	腸炎ビブリオ	17	168	0
	ノロウイルス	303	11,618	0
	その他・不明	441	6,895	4
21	サルモネラ属菌	67	1,518	0
	カンピロバクター・ジェジュニ/コリ	345	2,206	0
	腸炎ビブリオ	14	280	0
	ノロウイルス	288	10,874	0
	その他・不明	334	5,371	0

表2 平成21年 死者が発生した食中毒事例

NO.	原因施設 都道府県	発病年月日	原因施設 種別	原因食品名	原因食品種別	病因物質種別	患者総数	死者総数	摂食者総数	性別、年齢
	* 該当事例なし									

参考 平成20年 死者が発生した食中毒事例

NO.	原因施設 都道府県	発病年月日	原因施設 種別	原因食品名	原因食品種別	病因物質種別	患者総数	死者総数	摂食者総数	性別、年齢
1	茨城県	2008/1/11	販売店	フグ鍋(ショウサイフグ)	魚介類-ふぐ	自然毒-動物性自然毒	1	1	2	女、40～49歳
2	兵庫県	2008/5/27	家庭	フグ(魚種不明)	魚介類-ふぐ	自然毒-動物性自然毒	1	1	1	男、50～59歳
3	長崎県	2008/10/14	家庭	フグ(コモンフグ)	魚介類-ふぐ	自然毒-動物性自然毒	1	1	1	男、60～69歳
4	大阪府	2008/10/27	家庭	その他(家庭での昼食調理品)	その他-食事特定	細菌-セレウス菌	3	1	3	男、1～4歳

表3 平成21年 月別食中毒発生状況

[illegible]

食中毒発生時の行政対応について

